

製品名: CLIC3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09038**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	CLIC3
別名	CLIC3; Chloride intracellular channel protein 3
遺伝子 ID	9022.0
SwissProt ID	O95833
免疫原	抗血清はヒト CLIC3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

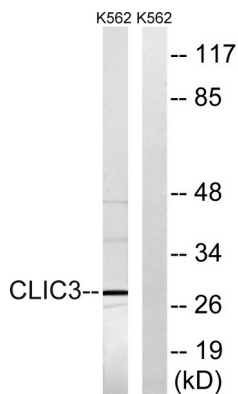
背景

塩化物イオンチャンネル 3 (CLIC3) ホモサピエンス 塩化物イオンチャンネルは、細胞膜電位の安定化、経上皮輸送、細胞内 pH の維持、細胞容積の調節など、基本的な細胞プロセスを制御する多様なタンパク質群です。塩化物イオンチャンネル 3 は p64 ファミリーに属

し、主に核内に局在し、塩化物イオンチャネルの活性を刺激します。さらに、MAPキナーゼファミリーに属する ERK7 との関連に基づき、このタンパク質は細胞増殖制御に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: このファミリーのメンバーは、球状の可溶性状態から、N 末端ドメインが膜に挿入され塩化物イオンチャネルとして機能する状態に変化することがあります。N 末端ドメインの構造変化により、疎水性表面が露出し、膜への挿入が引き起こされると考えられています。機能: 膜に挿入して塩化物イオンチャネルを形成できます。細胞増殖制御に関与している可能性がある。類似性: 塩化物チャネル CLIC ファミリーに属する。類似性: GST C 末端ドメインを 1 つ含む。類似性: GST N 末端ドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 主に核内。一部のタンパク質は細胞質にも存在する。可溶性細胞質タンパク質と、おそらく単一の膜貫通ドメインを持つ膜タンパク質の両方として存在する。サブユニット: ERK7 の C 末端に関連。組織特異性: 胎盤で検出される (タンパク質レベル)。広く発現している。胎盤で高い発現が認められ、次いで肺、心臓の順である。骨格筋、腎臓、脾臓では低い発現が認められる。、

研究分野

画像データ



CLIC3 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。